

熊谷市地域芸能振興事業

第1回地域伝統芸能今昔物語 出演概要

平成21年2月1日(日)
妻沼中央公民館大ホール
12:30開場 13:00開演

出演団体・演目

上川原神道香取流棒術保存会 「上川原神道香取流棒術」	池上獅子舞保存会 「池上獅子舞」
下恩田ささら獅子舞保存会 「下恩田ささら獅子舞」	手島楽友会 「手島八木節笠踊り」
上新田屋台囃子保存会 「上新田屋台囃子」	東別府祭囃子保存会 「東別府祭囃子」
江南文化団体連合会 「江南音頭」	江南民謡音秀会 「出船音頭ほか」
妻沼八木節保存会 「八木節傘踊りほか」	妻沼民謡民舞連合会 「妻沼音頭」
大里沖縄舞踊愛好会ほか 「大里音頭」	大里沖縄舞踊愛好会 「四ツ竹ほか」
妻沼東中・西中舞踊生 「実盛慕情」	熊谷市文化連合邦楽部 「直実節」

2009

地域伝統芸能今昔物語実行委員会

熊谷市立江南文化財センター 山下祐樹

(2009.2.16)

上川原神道香取流棒術

上川原神道香取流棒術保存会

演目 上川原神道香取流
棒術



この棒術は奥儀秘伝書によると、室町時代の天文年間に盛んに行われていたとされ、約470年の歴史を持ちます。棒術には表裏の各十二手があり、護身の型の表十二手のみを公開しています。裏十二手は極秘とされ、現在でも相続人と呼ばれる役員以外に目にする機会はありません。演技は「遣いの方」と「請けの方」の二人が組み、三尺の檜の木刀を持ち、紺の刺子と袴をはき、勇壮な姿で行います。

上川原神道香取流棒術保存会は、後継者育成のために定期練習会や伝承由来の研究も行われています。
(無形民俗文化財:昭和33年11月3日指定)

下恩田ささら獅子舞

下恩田ささら獅子舞保存会

演目 幣掛り(へいがかり)



今から180年位前から、五穀豊穰や氏子の繁昌を祈る獅子舞として継承されてきました。演目の「幣掛り」は、悪魔を払った御幣を獅子がのむという逸話に基づき、法眼・雌獅子・雄獅子の三獅子が演じます。演奏は、笛、獅子の太鼓、竹を細く割って刷毛状にした竹と刻み目を入れた棒とを擦り合わせ音を出す簞(ささら)使います。

明治以降、諏訪神社夏祭りとして、地域の一大行事になりましたが、一時中断せざるを得ない状態になるものの、伝統芸能の再起に対する熱い想いが集い、下恩田ささら獅子舞保存会として、現在も多くの若手を含めて獅子舞の継承に励んでいます。

(無形民俗文化財:昭和54年5月14日指定)

上新田屋台囃子

上新田屋台囃子保存会

演目 屋台囃子



上新田地区にある諏訪神社の大祭で行われる囃子です。江戸中期頃から始められ、囃子について記した「大帳」によると、新囃子、屋台囃子、ショウデン、鎌倉、神田丸の5つの曲目を有しています。現在は、屋台囃子を中心に演じられ、オード、ツケ、摺(す)り鉦(がね)、笛を用い、その囃子は、前奏、キザミ、乱拍子、キザミ、乱拍子、中キザミ、ブッキリで構成されています。

練習は、夏休みに子どもたちを中心に行われ、夏祭の準備と共に技術の伝習が行われています。

(無形民俗文化財:平成18年12月3日指定)

むさし江南音頭

江南文化団体連合会

演目 むさし江南音頭



昭和60年11月に町制施行を記念し、郷土江南がさらに発展、愛される町となることを願い、郷土の唄「むさし江南音頭」が製作されました。作詞森 菊蔵、作曲押尾 司、歌手鈴木正夫・藤 みち子が唄い、1番から8番までの歌詞には、江南の風景や寺社、歴史などがつづられています。むさし江南音頭の振付けは、輪踊りで、佐渡おけさのようにどこからでも踊りだすことができるよう工夫されています。むさし江南音頭は、小中学校の運動会や体育祭、江南まつりなどで踊られ、今も地域の方々に親しまれています。

八木節傘踊りほか

妻沼八木節保存会

演目 斎藤別当実盛公
萩野吟子女史



八木節の発祥は、群馬県東部から栃木県足利市八木宿周辺で大いに唄われたことから八木節と呼ばれました。大正時代に初代堀込源太によりレコード化され、全国的に知られるようになりました。その二代目堀込源太は妻沼飯塚の三間勝利さんが襲名、現在四代目に受け継がれています。このようなことから、平成6年11月、妻沼八木節保存会が設立され、歌詞は、郷土の偉人を題材に2曲が作詞されました。囃子は、樽太鼓1、太鼓1、鼓4、笛1、すり鉦1で構成され、演目は男性が唄う「斎藤別当実盛公」の唄に合わせた傘踊り、女性が唄う「萩野吟子女史」の唄に合わせた笠踊りです。

大里音頭

大里沖縄舞踊愛好会ほか

演目 大里音頭



大里音頭は、昭和58年、旧大里村コミュニティづくり推進協議会において、村民より歌詞を募集し、1番から8番までの詞に作曲家森川文雄、振り付けを小柳流の小柳みどりが付け、製作されました。歌詞は、のどかな田園風景や四季の移り変わり、そこに住む人々の人柄などが唄われており、小中学校の運動会をはじめ、コミュニティー発表会や各地区の祭りにおいて踊られています。さびの部分では、「ほんとに 大里 よいところ」と大里への想いを込めた歌詞がつづられています。

実盛慕情

妻沼東中・西中舞踊生

演目 実盛慕情



齊藤別当実盛公敬仰会が石川県加賀市の実盛塚を訪れた際に、地元中学生が実盛を偲ぶ詩舞「篠原慕情」を舞ったことを端に発します。平成5年、妻沼において詩舞実盛慕情が創作され、妻沼東中学校と同西中学校の剣道部員による舞いが今に受け継がれています。振り付けは、篠原慕情と同じとし、歌詞の1番、2番も篠原慕情と同じですが、漢詩と3番は新たに創作されました。

発表の機会としては、地元での剣道大会や妻沼聖天山大祭などに出演し披露しています。

池上獅子舞

池上獅子舞保存会

演目 かいどうくだり
すりこみ 他



池上の古宮(こみや)神社に伝わる獅子舞は、室町時代、古宮神社の神主、茂木大膳(だいぜん)が、京都石清水八幡宮の獅子舞に感銘して、当地に伝えたと言われています。獅子舞は、三頭の獅子と「めんか」が一組となる勇壮な舞いで、演者が掛け合う「かいどうくだり」や「すりこみ」といった劇的な舞を通して、「五穀豊穰」「雨乞い神事」を祈願し、舞を奉納します。

古宮神社の祭事として、5月5日の疫神祭、8月28日の例大祭、1月の新春奉納獅子舞で獅子舞を披露。今日では、地元小中学生が参加し、獅子舞継承の担い手となっています。

(無形民俗文化財:昭和33年11月3日指定)

手島八木節笠踊り

手島楽友会

演目 ・扇子踊り ・日傘踊り
・雪下し



大正時代に当時の青年達が大里楽遊会を設立し、八木節を始めました。一時、衰退しましたが昭和48年に手島楽遊会(後、楽友会に改称)が組織され現在にいたっています。踊りは、雪おろしと呼んでいる「菅笠踊り」「扇子踊り」「日傘踊り」「棒踊り」「二つ輪踊り」があり、その中の「扇子踊り」「日傘踊り」「菅笠踊り」は、活気あふれる踊りです。

音頭は、樽太鼓、鼓、笛、すり鉦で、歌詞は、「五郎正宗孝子伝」や、大里の情景をつづった歌が唄われています。活動は後継者の育成とともに、民俗芸能の発表会や夏祭りへの参加など発表の場を広げています。

(無形民俗文化財:昭和54年5月14日指定)

東別府祭囃子

東別府祭囃子保存会

演目 ばか囃子
祭り囃子



東別府祭囃子は、東別府にある東別府神社の祭り囃子で、例年、7月24日・25日の神社の夏祭りに、神輿(みこし)の巡行に合わせて「東別府囃子」と呼ばれる囃子が同行します。囃子には、演目として通称「ばか囃子」と「祭り囃子」等があり、いずれも神輿巡行の「カつけ」をする役割を担っています。また、囃子に「おかめ」と「ひょっとこ」踊りが加わり華やかさを有しています。

東別府祭囃子保存会は、後継者育成として子どもたちへの伝習や各地で披露するなど幅広く活動を行っています。

(無形民俗文化財:昭和46年12月8日指定)

吾野機織唄ほか

江南民謡音秀会

演目 吾野機織唄
出船音頭



吾野機織唄は、《わたしゃ吾野の 織屋の娘 思い一筋 恋の糸・・・》と唄われるように、飯能市吾野の機織唄として伝承されている民謡です。この唄は、養蚕が盛んであった秩父地方をはじめ県西部や北部において知られ、節回しもその土地の匂いがする唄い回しです。伴奏は、三味線、太鼓、尺八を使います。出船音頭は、北海道函館港を唄った曲ですが、景気のよい唄として親しまれています。

江南民謡音秀会は、江南文化団体連合会に所属していますが、年に1度、大麻生、大里、江南のそれぞれの地区の音秀会が一堂に会して発表会を開催するなど民謡の楽しさを広める活動をしています。

妻沼音頭

妻沼民謡民舞連合会

演目 妻沼音頭



妻沼音頭は、昭和27年妻沼聖天様御開帳の年にあわせて、作詞茂木恒夫、作曲は地元中学校の音楽教諭須田アイさんにより曲が付けられました。昭和50年、旧妻沼町観光協会、同商工会等により妻沼音頭のレコードが製作され、あわせてB面には「縁結び囃子」が収録されました。また、時期を同じくして「利根川叙情」の唄も製作されたとのことですが、今はその唄を知る人も少ないとのことでした。

妻沼音頭は、小中学校の運動会や聖天様のお祭など機会があるごとに踊られ親しまれています。

四ツ竹ほか

大里沖縄舞踊愛好会

四ツ竹

演目

アサドヤ
安里屋ユンタ



沖縄舞踊とは、旧沖縄県大里村との交流を通して出会い、大里地区において親しまれています。四ツ竹は、沖縄琉球王国時代の宮廷芸能の一つであり、華やかな衣装に身をまとい来賓を招きもてなす唄と踊りです。割った竹を打ち鳴らすことから四ツ竹と呼ばれています。安里屋ユンタは、竹富島の民謡で、「竹富島に生まれのクヤマはとても美人に育ったが、それを島役人が目をつけた…」と風刺の効いた民謡で、小太鼓を打ち鳴らしながら踊ります。現在も踊りの指導者として沖縄県旧大里村(現、南城市)から招くなど、交流が続けられています。

直実節

熊谷市文化連合邦楽部

演目

直実節



直実節は、昭和38年、当時の栗原浩埼玉県知事の作詞と明本京静作曲によるものであり、あわせて踊りの振り付けも付けられ、広く愛唱されています。現在でも市内の小中学校の運動会、熊谷えびす祭り、公民館まつりをはじめ、近隣の市や町においても親しまれている唄であり踊りです。また、今回の出演団体は、熊谷市文化連合邦楽部に所属する藤蓉会、美和会、美幸会の3団体により披露します。